

第1回 株式会社ベル

部門ごとに異なるユニフォームを
全員参加で統一

▶▶▶ポイント

■社内でバラバラだった制服を統一したい

■欠品で入手不能になるのを避けた

ユニフォームを変えることは、ビルメン企業や現場にどんな活力を生み出すのか。シーユービー㈱製ユニフォームの導入事例を通して、その“変化”を隔月でお伝えします。第1回目は「愛と感動のビルメンメンテナンス」をキャッチフレーズに注目を集める㈱ベルの事例を紹介します。

取材/編集部、写真/渡辺智宏

同じ部門の制服なのに、色が違う？

大阪府東大阪市に本社を構える㈱ベルは、平成4年創業の比較的若い会社です。事業内容は、清掃管理、衛生管理、設備保守から、マットなどのレンタルやリフォームまで手がけ、平成23年には子会社の日本鳩対策センター㈱を設立し、鳩対策施工の代理店ネットワーク運営も行っています。

本社に足を踏み入ると広がるのは、仕切りがなく、通路も広くとられた、まるでIT企業のような解放的なオフィス空間。社員のみなさんの明るさと活気に、成長真ただ中の勢いある会社だということが感じられます。

そんなベルは、「愛と感動のビルメンメンテナンス」というユニークなコーポレートスローガンを掲げています。ビルメン業で「感動」を生み出すため、社員が自ら考え行動できる企業風土づくりや、お客様との強固な信頼関係の構築により、価格競争に陥らずにお客様から選ばれるようになるため企業ブランディングを進めてきました。その原動力は、なんといっても社員一人ひとりの力。技術だけでなく、マ

ナーや見た目も重要と考え、ユニフォームについても長年かけて検討し、部門ごとにほぼ完成されたスタイルができていました。

しかし、ある悩みを抱えていたといいます。答えてくれたのは、アップフロント（兼）業務部ビルメン係長の山崎知子さんです。

「以前はマットレンタル部門、定期清掃部門、日常清掃の管理部門、総務で別々の制服を着ていました。ただ、地元の制服屋から購入していましたが、突然廃番になって入手できなくなることが多いんですね。しかたなく、形は多少違っても、各部門で同じ色のシャツを探してやりくりしましたが、少しずつ違うので、5人並ぶと1人目と5人目では「ぜんぜんちゃうやん！」という状態でした（笑）」

マットレンタル部門は濃紺のチェック柄のシャツ、定期清掃は濃紺のポロシャツなどと決まっていたながら、さらにそれぞれの部門内でもバラバラ感があるという状態が続いていたのです。

見直しを機に全社のユニフォームを統一

そんななか、見直しのきっかけとなったのが、J



アップフロント（兼）業務部ビルメン係長
山崎知子さん

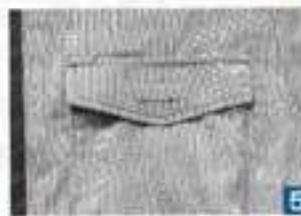
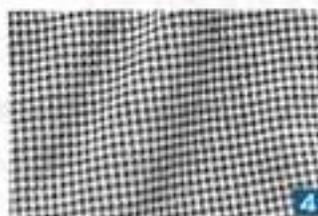


㈱ベル 代表取締役 奥 斗志雄氏

制服には、腕を通した瞬間に仕事への自覚が生まれ、スイッチが入る効果があると思います。また、格好いい制服は清掃という仕事の価値を変えるものです。従業員に胸を張って働いてもらうためにも、とても重要なものですね。



ニットシャツ品番：FTK319



1. 背面の企業ロゴがアクセントに／2. “ネクタイ風”の部分は青と黒のストライプ／3. 全体としてはグレーでシルエットはシャープな印象／4. 近寄るとわかる細かな千鳥格子柄／5. ふたをしたままペンが挿せるポケット

BQ（日本ビルメン経営品質協議会）を通じて親交のある㈱エヌピーエムが、シーユーピーのユニフォームを採用しているのを知ったことでした。評判も良かったため、ぜひ頼んでみようということになり、シーユーピーの営業担当者にコンタクトをとり検討を始めたのが2013年夏ごろのことです。要望したのは以下の点でした。

- 本社スタッフ全員（日本橋対策センター含む）のユニフォームを統一したい
- 決めたデザインのユニフォームが、突然入手できなくなる事態は避けたい

なお、見直しにあたり優先したのはマットレンタル部門の事情です。日常的にマットを肩に担ぐため、従来と同様に汚れが目立たない濃紺のチェック柄をベースとした、オリジナルユニフォームを制作することになりました。

「2013年8月に最初の打ち合わせを行い、その後サンプルを取り寄せては、スタッフに1週間くらい試着してもらい、アンケートをとる……ということ、5～6回は繰り返しました」（山崎さん）

サンプルが届くと、まずはその場の社員にも率直

な意見を求めたといいます。風通しがいい同社ならではの“全員参加”のスタイルで、動きやすさ、ポケットの位置や数などについて検討を重ねました。

ところが、途中で少し事情が変わります。幸運なことに、検討していたタイプのユニフォームが、シーユーピーで定番商品として扱われることになったのです。しかも、柄やデザイン、通気性や速乾性、形崩れしにくいことなどが、求める機能と合致していたため問題はありませんでした。また、フロントのボタンを閉めると縦のラインがネクタイのように見えるデザインは、オフィスに出入りするマットレンタル部門の社員にも、営業と現場のヘルプの両方を行う管理部門の社員にも、まさにうってつけのものでした。

そのため、一気に採用が決定。完全オリジナルではなくなったものの、必要な条件はクリアし、定番品なのでコスト面のハードルも下がり、同社としては満足のいく結果となりました。

さらに検討を重ね、ユニフォームの背面、襟の下にイルカをモチーフにした企業ロゴワッペンを縫い付け、ベル仕様のユニフォームが完成。2014年夏ごろから徐々に導入を始め、秋までに全員着用に至



6. 寒い時期は黒色のインナー*を合わせる/7. 小物や現金を持ち歩く場合は腰袋*を使用/8. 黒色のパンツは薄手で動きやすい素材
*はシーユービーの商品ではありません



現場に直行できる作業着としての機能はもちつつ、オフィス内で着用していても違和感のないデザインが特徴
※モデルのお2人は社員さんです(4月号表紙に登場予定!)

りました。しかし、ここでなんと、採用したユニフォームに長袖タイプがないことが発覚します。

「社長のアイデアもあり、内側が起毛素材のインナーを着ることにしました。スポーティーなスタイルは、社長のお気に入りなんです」(山崎さん)

すべて決定したのが2014年11月で、取材に伺ったのは12月でしたが、社員のみなさんの声からは満足度が伝わってきます(右記参照)。一番重視していたマットによる汚れも、細かな千鳥格子柄が目立ちません。また、洗っても乾きやすいので、一人暮らしでも着回しやすくと好評です。

課題が見えてくるのはこれから

なお、導入から1年も経っていないため、課題が見えてくるのはこれからになります。

「業務内容により、多い人には4着ほど支給していますが、半袖を年間通じて着続けるので、1年経ってどのくらい傷むのか検証が必要になると思います。パンツもシーユービーのもので、年間通じて同じものを、冬はインナーで温かさを調整して履きつづけることになりましたね」(山崎さん)

スタッフの感想

お客様からは「制服とは思わなかった」という声を聞きます。他の“作業服”とは違うので、自分自身でも着ていて誇らしさを感じます。(業務部・武岡伸幸さん)

現場の仕事も営業もするので、営業時はワイシャツに着替えてからネクタイをしていました。今はそういう手間がなくなり楽ですね。(業務部・原田好二さん)

汚れも目立たず、アイロンがけも不要なので主婦としてはうれしいですね。お客様からも、キーパーさんからも恰好いいねって好評です。(業務部・八尾孝美さん)

また、今後は協力会社にも同じユニフォームを着用してもらい、同社の手がける現場でのバラつきをなくしていくことも課題だといえます。

同社ではこれからも、だれが見ても「ベルのスタッフ」だとわかるようにして企業ブランドを定着させつつ、従業員が誇りをもって働けるよう、ユニフォームのアップデートを重ねていくそうです。

株式会社ベル

本社：〒578-0983 大阪府東大阪市吉田下島14-7
TEL：072-961-7171
URL：<http://www.ai-kando.jp/>
従業員数：160名(本社16名/現場154名)

【ユニフォームに関する問い合わせ】
シーユービー株式会社 TEL：086-221-9555